

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関する「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和 4 年 4 月 25 日現在

研究課題名	ヴェルナツキー文庫に関する調査:出版物の言語に注目して	
申請者	氏名	所属機関・職
	斎藤祥平	広島市立大学国際学部・准教授

研究成果の概要 歴史家ジョージ・ヴェルナツキーのコレクションについて、文献の言語に注目して調査を行った。ヴェルナツキー文庫の目録 (*Russia and Eastern Europe: A List of the George Vernadsky Collection, Hokkaido University Library, 1982*) を参照しつつ、実際に書庫に入り、調査を行った。同コレクションは、ロシア語以外のヨーロッパ諸語で書かれた書物から成っており、これまで指摘されていたように、ポーランド関係を筆頭として、東欧諸国、バルカン諸国、バルト諸国関係の文献が充実していた (外川継男「An East European Collection in Western Language (ヴェルナツキー文庫について)」『楡蔭』第 50 号、4-6 頁)。一方で、アジア・アフリカ地域や、ヴェルナツキーの歴史学にとって重要と思われるモンゴルや中央アジア地域に関する文献については、このコレクションがヨーロッパ諸語によるものであるためか、相対的に少ないということなどが分かった。北海道大学附属図書館には、ヴェルナツキー文庫と並び、エプシュタイン文庫、スヴァーリン・コレクション、ベルンシュタイン・コレクションなどが所蔵されている。こうした高額かつ入手が極めて困難なコレクションに国内にいなながらアクセスできることは共同利用制度の醍醐味であり、今後は一層のこと、その希少性が高まるだろう。そのうちのひとつであるギブソン文庫について、次のような紹介がなされている。

「このコレクションは、研究上不可欠な史料の宝庫であるとともに、多くの人にそうした知的刺激を呼び起こす場として、長く役立つものと確信している」 (兎内勇津流「James R. Gibson コレクションについて」『楡蔭』第 107 号、14-16 頁) 今回の滞在での成果の一つは、貴重なコレクションを実際に目の前にして、更なる研究調査への意欲が掻き立てられたことである。国外出張の機会に限られる状況下で、まずは今回の滞在中で閲覧した文献を研究に活かしていきたい。最後に、快適な滞在をサポートしてくださったスラブ・ユーラシア研究センターの方々に厚くお礼を申し上げたい。

主な発表論文等 (雑誌論文、学会発表、図書 等) ※謝辞の有無について明記願います。
準備中です。

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト (応募中の研究プロジェクトを含む)

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。